

## 協働作用を利用した金属触媒の高機能化

清水 研一 教授（北海道大学 触媒化学研究センター）

2015年5月14日（木）15:15–16:15

創成科学研究棟4階セミナー室B・C

<http://www.cat.hokudai.ac.jp/access.html>



稀少金属低減型の環境浄化法やサステナブルな化学品合成法の確立は化学の最重要テーマの1つである。自動車触媒は白金族需要の大半を占め、卑金属による代替は触媒科学の悲願である。有機合成分野においては精密設計された白金族錯体が先導的な役割を果たしてきたが、実用性の高い固体触媒の基礎研究は萌芽期にある。講演者は金属と酸化物担体の協働作用を利用した触媒系が排ガス浄化・有機合成において高い性能を示すことを発見し、分子レベルでの作用原理を提案してきた。本講演では、これまでの成果を概説するとともに、今後の研究戦略を議論する。

問合せ先： 触媒化学研究センター・朝倉清高 ([askr@cat.hokudai.ac.jp](mailto:askr@cat.hokudai.ac.jp)・011-706-9140)

1971年静岡県大井川町生まれ。名古屋大学工学部応用科学科卒業。2000年同大学院博士課程修了(服部研),工学博士。2000年新潟大学(北山研)助手,2004年名古屋大学(薩摩研)助教,2010年10月,北海道大学触媒化学研究センター准教授を経て,2015年4月より新しく触媒物質化学研究部門の教授に就任。専門は触媒化学を基礎とし,不均一系触媒による有機合成,自動車排ガス浄化研究。